令和6年度第2回ちがさき自転車プラン推進委員会 会議録

議題	<p><報告事項></p> <p>(1) 委員の委嘱について</p> <p>(2) 策定スケジュールについて</p> <p><協議事項></p> <p>(1) 第3次ちがさき自転車プラン(自転車活用推進計画)の素案(案)について</p>
日時	令和6年8月7日(水) 15時から16時30分まで
場所	茅ヶ崎市役所 分庁舎5階 会議室A・B
出席者名	<p>委員：西脇 毅、猶野 秀子、新谷 雅之、船津 憲幸、益田 和子、鈴木 健司、朝倉 利之、佐々木 睦子、関本 敏明、阿部 敏廣、田中 晴男、福田 三朗、杉本 裕介、国分 宏樹、松本 修一、古倉 宗治</p> <p>(欠席)</p> <p>平本 善昭、佐藤 たふ子、細井 年春、長谷川 裕、小林 将人</p> <p>(事務局)</p> <p>都市部都市政策課、くらし安心部安全対策課</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席表 ・資料1 策定スケジュール ・資料2 第3次ちがさき自転車プラン(自転車活用推進計画)素案(案)
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	1名

(会議の概要)

1. 開会

○高山課長 定刻になりましたので、令和6年度 第2回ちがさき自転車プラン推進委員会を開催いたします。

本会議は委員21名のうち現在15名にご出席いただいています。よって会議開催に必要な過半数の定数を満たすため、会議を開催いたします。

本日は傍聴人の方がいらっしゃいます。委員会の内容については、原則公開となっておりますが、傍聴人の方はご発言できませんのでよろしくお願い申し上げます。

本日は議事を録音するため、マイクを使用しますので、ご発言いただく際には、お手元のマイクのスイッチをオンにし、発言が終わりましたら、スイッチを切っていただきますようお願いいたします。

それでは松本委員長進行をお願いいたします。

2. 報告事項について

○松本委員長 こんにちは。本日も皆さまのご協力のもとに進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。議事に沿って報告事項なんですが、「委員の委嘱について」に入ります。新しい委員の方々がいらっしゃいますので紹介をお願いします。

○事務局 委員の名簿をご覧ください。茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会の末松委員の交代に伴い鈴木 健司さんを委員に委嘱いたしました。

続きまして、茅ヶ崎市大型店連絡協議会の中村委員の交代に伴い、細井 年春さんに委員を委嘱することになりました。細井委員は本日ご欠席となります。

東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 山根委員の交代に伴い国分 宏樹さんに委員を委嘱することになりました。

新しく委員になられた方の紹介については以上です。

○松本委員長 新しく委員になりました鈴木さん、国分さん、本日は欠席ですが細井さん、これからどうぞよろしくお願いいたします。

続いて報告事項の2つ目、策定スケジュールについてに移ります。事務局より説明をお願いします。

○事務局 それでは報告事項の2つ目としまして、策定スケジュールに移ります。お手元にA3の資料1と書かれた紙をご用意お願いいたします。

こちらにつきましては本日以降の流れについて、ご説明させていただきます。まず委員会なんですが、本日含めて2回開催を予定しております。具体的な流れについてはこちらの紙に沿ってご説明いたします。

まず、中段より少し下に委員会という欄がありまして、グレーの矢印が入っている8月以降というところをご覧ください。

本日、令和6年第2回ということで、8月に開催しております。本日、素案

ということで提示させていただいています。

こちらについて議論いただいた後、内容を反映して、さらにイラストやコラムを追加した素案(案)を、大体9月中旬から下旬を目安に、委員の皆様へ一度資料送付を予定しております。

内容ご確認いただきまして、10月中旬から下旬に再度、こちらの委員会を開催し、答申という流れを予定しておりますので、本日含めて2回、あと委員会を策定まで開催して、答申という流れになります。

その後は、事務手続きですとか、パブリックコメントの実施を2月に予定してまして、最終的に3月にちがさき自転車プラン(自転車活用推進計画)の策定を予定しているという流れになります。今後の流れにつきましては以上となります。

○古倉副委員長 11月と12月の間のところに素案(案)が取れた素案という形になっていると思いますが、本委員会ではこの素案を答申するというので、よろしいんですね。つまり最終形について、これで結構ですというのではなくて、むしろ素案という形で答申させていただいて、その答申された内容について、あと事務手続きやパブリックコメントを進められて、市としての最終決定になるとこんなような理解でよろしいんですね。

○事務局 ありがとうございます。こちら素案と書かせていただいておりますが、こちらパブリックコメントにかける案という意味合いで素案という形にされております。

答申を受けた素案をもとに庁内手続き、パブリックコメントを経て最終的に確定をしていくという流れになっております。

○松本委員長 その他ございますでしょうか。ないようでしたら、議題1「第3次ちがさき自転車プランの素案について」に移ります。

3. 協議事項について

○松本委員長 今日の目標は、次回の委員会が最後になるので、答申に向けて意見を出し切り、それに対する委員会の考えをまとめるところまでできればと考えています。ボリュームがあるので円滑に進行を進めるため、こちらの素案を第1章から第3章、4つの方向性ごとに議論して、最後に4章と分けてから進めていきたいと考えていますがよろしいでしょうか。

それでは事務局より説明をお願いします。

○事務局 それではお手元に資料2と書かれております「第3次ちがさき自転車プラン(自転車活用推進計画)」の素案(案)のご用意をお願いいたします。

まず素案の説明に入る前に、今回の自転車プランの作成にあたりまして、コンセプトについてお伝えさせていただければと思います。

今回は作成するにあたりまして、市民の皆さんに読みやすく、そして親しみやすいプランということに重点を置いて作成を進めてきました。

そのため、従来の計画とは異なる構成をとっている部分があります。詳しく

い内容につきましてはこの後説明させていただきます。

本日の説明につきましては、事前に7月上旬に、6月26日時点ということで、一度資料をお送りさせていただいてますので、そちらからの変更点を中心にご説明いたします。それでは内容に移ります。

まずはページをめくっていただきまして、「はじめに」ということで、最初には市長の挨拶とともに、このプランで何を目指していくのか。分かりやすく伝えていくために、このプランで目指すものを明記する形をとっています。

続きまして次のページをご覧ください。次のページにつきましては、「自転車に乗ってこんながいい」という、自転車のメリットについて記載しています。こちらのページでは、これから自転車の利用を進めていくにあたって、まず前提となる自転車に乗る魅力について、市民の皆さんと共有してから、内容に入っていくために、はじめにもってくる構成としております。

内容につきましては、「健康がいい」「早く移動できる」「環境に優しい」「省スペース」「家計に優しい」「茅ヶ崎のライフスタイルを味わえる」と6つの要素を掲載しています。

ここの「健康がいい」というところで、「自転車と同じエネルギー消費量は？」と書いていますが、出典の方が抜けてしまって大変申し訳ないです。厚生労働省の「健康づくりのための身体活動基準2023」をもとに作成をしております。こちらのページにつきましては、あまり難しい専門用語を使わずに、感覚的に市民の皆さんに「自転車っていい」というのがわかるようにすることを意識して作成しています。

続きまして次のページをご覧ください。こちらではSDGsについて記載しています。本プランはSDGsの取り組みを推進していくことは前提と言いますか、本題に入る前の情報となりますので、目次の前に持ってくるという構成をとっております。

続きまして、横の目次に移ります。まずここでは全体の構成についてご説明いたします。

初めに第1章「第3次ちがさき自転車プラン(自転車活用推進計画)の策定にあたって」ということで、1策定の趣旨、2自転車を取り巻く環境の変化、3位置付け、4期間、5対象地域の5つから構成をしています。

ここで変更点になりますが、「2自転車を取り巻く環境の変化について」、事前にお送りしました6月26日時点の資料では、第2章の基本的な考え方の部分に入れていたのですが、法改正や法律に関係することなど、社会的な流れの内容になりますので、第1章に組みかえるという形をとっています。

続きまして「第2章 目指すもの」に移ります。こちらにつきましては、計画の背景、将来の都市像、3つ目として基本的な考え方で構成しています。6月26日時点ではSDGsの項目を入れていたのですが、先ほどご説明した通り、SDGsにつきましては、目次の前に変更しています。

続いて「第3章 方向性ごとの取り組み」に移ります。こちらについては4つの方向性についての説明の構成となっております。

変更点としまして、以前は「まちづくりの方向性」としていましたが、まちづくりの方向性という「まちづくり」という言葉を使うことで、市全体としてまちづくりで何を指すのか分かりにくくなる可能性があることから、今回は「方向性」に言い方を変更しています。

最後、第4章になります。推進体制・評価方法と記載していますが、こちら第4章は推進体制のみとなります。評価方法につきましては削除という形になります。申し訳ございませんが訂正をお願いいたします。

こちらにつきましては、推進体制の説明を行います。以前はここに残ってしまっていた通り、推進体制の後に評価方法と掲載していたんですが、こちらにつきましては、内容を削除はしていないんですが、第2章 基本的な考え方に、評価手法という項目がありましたので、わかりやすくするためにこちらと統合を図る形をとっております。

最後に資料編になります。資料編につきましては本日お配りした資料には掲載はしていませんが、今後第2次ちがさき自転車プランでの取り組みや、総括、先日実施しましたオープンハウス、今後実施するパブリックコメントの実施結果などの掲載を予定しています。目次につきましては説明は以上となります。

それでは第1章に移ります。2ページ目と書かれています策定の趣旨になります。6月26日時点の資料からの変更点としましては、前プランの評価等を記載しております。ただ大きく考え方に変更はありません。

あと、4月に開催した委員会の中で、「自転車は移動手段」という表現につきまして、ご議論いただいたところでもあります。そこにつきましては交通手段として親しまれてること、そして生活の中で欠かすことができない乗り物という形で表現しております。

続いて3ページ目「2自転車を取り巻く環境の変化」に移ります。こちらにつきましては、自転車活用法の施行、そして道路交通法の改正、神奈川県条例の施行ということで3つの要素を入れております。

以前この取り巻く環境の変化の中には、4つ目に太平洋岸自転車道について記載していましたが、自転車の利用を促進していく中で、対応すべき事項として整理した方がよりわかりやすいため、こちらの内容につきましては2章に残したままとしています。

続いて4ページ目をご覧ください。こちらは位置づけ、期間、対象地域を掲載しています。

位置づけにつきましては少し図を整理している部分はありますが、内容につきましては特に変更はしてないような状況です。

目次、第1章策定にあたっての説明は以上となります。

○松本委員長

ただいま事務局より説明がありました。こちらの目次及び第1章策定にあ

たつてについて、委員の皆様よりご意見はございますでしょうか。

【意見なし】

ここは綺麗に立て付け作ってくださってるので、大丈夫かなと思って見てたんですけど。それでは第2章の目指すべきものについて事務局より説明をお願いします。

○事務局

それでは「第2章目指すもの」について、5ページ以降につきまして、説明させていただきます。

ページをめくっていただきまして6ページ目、計画の背景に移ります。

こちらにつきましては、6月26日に送付した資料より変更はありませんが、3つの要素を挙げています。

1つ目は自然豊かなまち、そして2つ目はコンパクトなまち。3つ目は明るく自由でゆったりとしたまちと挙げています。

4月に開催した委員会の中で、「コンパクトなまち」を強調したほうがいいのではないかというご意見があったと思います。

自転車を利用促進していくために、キーワードとなる要素だと思っておりますので、こちらに「コンパクトなまち」と挙げさせていただいております。

続いて7ページ目の自転車利用の効果に移ります。こちらにつきましても特に6月26日以降大きな変更は行っておりません。要素としましては、超高齢社会への対応、2つ目として活力ある地域経済、そして3つ目自然環境の保全、4つ目安全安心の確保、そして5つ目人口の変化に対応した都市づくりとしています。

7ページ目の超高齢社会への対応というところで、以前お渡しした資料の中には、身体活動の例とメッツ数の表を入れていましたが、こちらにつきましましては、最初に自転車の健康について触れているため、カットしています。代わりに75歳以上の人口が急増すると見込まれている部分で、具体的にどのような推計があるのかということで、人口構成比を入れる形をとっております。

また、8ページ目にありました環境につきましても、二酸化炭素の排出量につきましましては最初の部分に持ってきていますので、こちらもカットしているという状況になっております。あと9ページ目にコラムということで掲載を予定しております。

続いて10ページ目に移ります。10ページ目につきましては、自転車の活用についてとなっています。

こちらにつきましては、これまでの1計画の背景のまとめのページとなっております。改めてご説明させていただきますと、茅ヶ崎のライフスタイルに自転車は最適であること、2つ目として地域課題の解決に有効。そのため、本市が持続可能なまちであり続けるために、まちの特徴に合った自転車の利用促進が必要となってきます。過度にマイカーに依存することなく、人と自転車を優先したまちづくりを行っていくことが必要ということを記載して

おります。

続いて11ページ目、目指すまちの姿に移ります。こちらにつきましては、「茅ヶ崎のライフスタイルに最適」そして「課題の解決に有効」というところで、これを行ってどういったまちを目指すのか、それが目指すまちの姿になります。

以前は「将来の都市像」という言い方もしていましたが、今回こちらの計画では「目指すまちの姿」に統一していきたいと思っています。

目指すまちの姿としましては、前回の委員会で提案したとおり「自転車健康都市～いつまでも自転車に乗って楽しみ続けられるまち茅ヶ崎～」としています。この自転車健康都市の意味は、人とまちが健康な都市を目指す。

これを実現した時のイメージ図として、こちらのイラストを今回入れております。

「人が健康」とはどういうことなのかというと、一番下に書いています。いくつになっても元気で、そして茅ヶ崎の風を感じながら、ぷらっと山や海に行ったり買い物に行ったり、茅ヶ崎のライフスタイルを楽しんでいる。

そして「まちが健康」というのは、環境に優しく、人々が行き交い、そしてにぎわいがあって活気がある。そのようなまちを目指していきたいと思っています。

こちらにつきましては、4月の委員会の際に「自転車健康都市」について、もう少し具体的な頭の中で描けるものでもいいのではないかというお話もあったと思います。

その後、他のキーワードや言い方等も検討してみたのですが、初めのページでまず自転車のよさに触れている点や、あそこは「自転車健康都市」と一言で言い表して、説明やイラストでイメージしやすいように工夫している状況です。

続きまして、12ページ目の「3基本的な考え方」に移ります。

こちらにつきましては、まず1つ目として12ページ目「自転車利用の機会が減少傾向」。

そのあと15ページ目に「安全安心に利用できるための取り組みが必要」と書いています。

さらに19ページ目、ここが新たに、先ほど少しご説明したところにもなりますが、「高まる観光需要への対応」ということで、太平洋岸自転車道がナショナルルートに指定されたこと、道の駅「湘南ちがさき」のオープンを予定しており、さらに高まる観光需要への対応が必要であり、先ほどご説明させていただいた、第1章の自転車を取り巻く環境の変化ではなく、こちらの利用を促進していく中での現状と課題で整理をし直しているところであり

まして、そして20ページ目に移ります。こちらの基本的な考え方につきましては、現状と課題を踏まえたところの考え方となっています。

ここについて改めてご説明させていただきます。現状と課題を踏まえて、自転車の利用を促進にするにあたり、誰もがルールを守り、自転車利用がされるとともに、走りやすい環境を整備することは必要不可欠となります。

そのため、前プランで取り組んできたまちづくりの方向性である「おもいやりの人づくり」「風を感じる空間づくり」の考え方を継続していきます。

さらに前プランの策定時以降、自転車活用推進法の施行をはじめ、太平洋岸自転車道のナショナルサイクルルートへの指定、災害時における自転車のさらなる活用推進の検討が求められているなど、様々な社会情勢の変化に対応していくために、「暮らしを楽しむ仕組みづくり」と第2次プランでしていたところについては、「暮らしにとけこむ仕組みづくり」、「まちの魅力に触れる仕掛けづくり」に整理して取り組みを推進していくと記載しています。

下の図表につきましては、まず自転車を活用する必要性、こちらは1計画の背景から基本的な考え方でのまとめのページと考えていただければと思います。

そして21ページ目に移ります。こちらは評価指標になります。

目指すまちの姿を実現するために、総合指標や4つの方向性ごとの目指す姿を実現するための指標を掲載しています。

5年後に中間評価、10年後に事後評価を実施して、プランの進捗状況を確認していく。

評価時は、設定した指標について市民アンケート等の結果等のデータや取り組み内容をもとに、社会情勢の変化を考慮しながら評価を行うということになっております。

こちらにつきましては、前回の委員会でお示ししました総合指標を掲載しています。その他4つの方向性ごとの指標については、25ページ目以降、それぞれの取り組みのところに掲載するという形をとっています。

22ページ目23ページ目には、目指すまちの姿「自転車健康都市」、4つの方向性、取り組み内容、主要の取り組みをまとめた一覧となっております。

事務局からの説明は以上です。

○松本委員長

ありがとうございました。ただいま事務局より説明がありました。

こちらの「第2章 目指すべき目指すもの」について、委員の皆様よりご意見はありますでしょうか。

○猶野委員

今回はとってもカラーで見やすく、ロゴも入っていて、とってもいいなと思います。ちょっと細かいところで申し訳ないんですけど、7ページの表の超高齢社会への対応のところ、本市の年齢4区分別の人口構成比っていうのがあるんですが、これ年代別が、字が非常に小さくて、よくわからないので、もう少し大きい字で書いていただけるといいのかなと思います。

○松本委員長

ありがとうございます。

○事務局

資料につきましては元データがございますので、そこから修正をかけるよ

うな工夫をしてみたいと思います。

○松本委員長

ついでで気がついたんですが、この図表の2-2で、上と左右は枠がついて、下だけ枠が抜けているので、黒線も入れといた方が綺麗かなと思います。他でございますでしょうか。

○福田委員

私も細かいところで申し訳ないんですけど、13ページのところの図表の2-4の部分で、10年前と比較して、自転車の利用が10%減少したっていうような文言があったので、この中で一体どこがどう増えたのか減ったのかっていうのを見ていったときに、これ10年前の25年の%を足すと101なんですよ。平成30年を足すと102で、令和5年は99で。どこが減ったって言ったら、数が合わないなと思って。そこが気になったので。

○事務局

ありがとうございます。確認して修正いたします。

○松本委員長

他、何かございますでしょうか。

○西脇委員

私の感じたことなんですけれども、11ページ目の「私たちは自転車を活用することで人とまちが健康な都市」っていうのが、人とまちがっていうので、ひらがなが続いていてわかりづらい印象受けました。

その下に「人が健康」と「まちが健康」ってあるので、例えば人とまちってダブルクォーテーションで区切るとかっていうように、分かりやすくしたほうがいいのかと思った次第です。以上です。

○事務局

ありがとうございます。スローガンのところに健康都市という言葉を使っているのですが、都市という言葉とまちという言葉が混在してしまっていますので、見やすくなるような工夫をしたいと思います。

○松本委員長

その他ございますでしょうか。

○古倉副委員長

いくつかありまして対応できる範囲で考えていただきたいと思うんですけど、1つは6ページ目の計画背景「コンパクトなまち」、面積は35.76平方キロメートルとあるんですが、地図を見ると円形とまではいきませんが、結構整形な形をしていると、こういう時よく言うのはやはり35.76平方メートルって一体どの程度の感覚のものかっていうのを説明として入れていただくと良いと思います。

例えば書き方ですが、また後から細かいのはご提出しますけど、自転車っていうのは10分で大体2.5km、15分で3.7km、大体いけるんです。茅ヶ崎市のこの面積35.76平方キロメートルを円形に仮に考えた場合、大体半径が3.4kmということは直径の隅から隅まで行く方って言うのはほとんどいらっしやらない。おそらく平均的には半径ぐらい。つまり3.4kmぐらいの移動だとしますと大体15分で行けると。そういうサイズ感っていうのをもう少しコラムでも何でもいいですから書いていただくと、市民が読まれた時に、自転車でどの程度のサイズ感なのかということはわかると思いますので、考えていただければありがたいなと思います。

それから9ページのところで、オランダのビジョンを掲載している。これは私の知っている限りは最新の図なんですけど、もう少し生活習慣病に密着し

て書くとなると、イギリスの国の自転車計画の中に、がんでも乳癌とかそれから何とか癌と分けてあって、割と切迫性があるように書いてあります。そういったものも採用した方が、より市民にやっぱり健康が大事なんだという、自転車での健康増進が大事なんだということを分かっていたらいいんです。もう少し細かく、この種類が10種類ぐらいある病気がありまして、それも参考にさせていただいて、どちらを取られるかそちらのご判断で結構ですので、参考に見ていただければ。イギリスの2020年だったかな。国の自転車計画にあります。

それから、12ページの基本的な考え方の現状と課題。自転車利用の機会が減少傾向と書いてあります。やはりこういう風に課題を書くとしたら、一体どうするのかという目標を、例えば1週間の内、自転車を利用する回数を何回ぐらいにするとか。13ページの図で36%、先ほどグラフの合計がという話がありましたが、どれぐらいに持って行きたいのかとか。そういうのは、どの辺にこれから書かれていっていかってというのはあると思いますが、もう少し具体的に書いていただいた方が。要するに減ってるという課題を提供した以上、減ったまま横ばいにするのか。あるいは上にするのかという、その辺のところの持っていき方とか。あるいはどういう手段でこれを上げていくのかとか。そういうのがやっぱり出てくると思います。このストーリー性の「減ってる」じゃあこうしていこう。「こういう目標を持ちたい。」そのためにこうしていく。とこういう繋がりがあると説明として分かりやすくなるのかなと思います。

それから15ページ目の自転車事故の話ですが、国道とか路線別の件数と道路形状別の件数ってありますが、これ以外のデータも欲しいです。数字がとれるかどうかですが、例えば私の方で調べたら国全体ですと、歩道と車道の事故件数っていうのは、歩車道分離されてる区間は、交差点は大体65%から70%ぐらいなんですけど、歩道が14%で車道が9%です。

つまり車道の方が少ない、歩道の方が多いと、こういう結果が出てます。

やはり問題意識として、自転車安全利用5則を皆さんに提唱しようとする、そういう歩道と車道の事故件数のデータを提示して、事故が歩道の方が多いことや、事故の原因や事故が起こってる場所、それから事故の態様。つまり出会い頭事故であるとか後ろから追突されている事故件数とか、こういう風に起こっていることがこれから大きな問題になります。要するに安全安心を向上して自転車を活用したいというためには、事故データが非常に重要なポイントにあるところだとすると、路線別件数とそれから道路形状だけではなくて、それ以外の事故の態様データについて、出会い頭事故を重点にして、収集すれば、一時停止とか信号遵守することに繋がっていくと思います。ですからどこに重点を置いて対策を進めることを明らかにするためにも、よりポイントをついた事故データがもっと必要になります。もう少し細かいデータが調べられたら、大変かもしれませんが、調べられる範囲でご検討いた

だけると、そのデータによってどこを注意しようかとかこういう流れがでてくると思います。

それから17ページのところなんですけど、長くなって恐縮です。ネットワークの地図が出ていると思います。ネットワーク計画も後から出てくると思うんですけど、一体どういうところを重点に整備しているのかが不明です。要するに繋がったネットワークを構築されてないと書いてあるんですけど、例えばこれは他の例ですけど、群馬県の場合、通学時の自転車事故が全国ワースト1で、だとしますとやっぱり通学路、つまり通学する際のネットワークの構築を先に優先してやるとか、そういうメリハリのなネットワーク構築っていうのがこれから考えて行くべきだと思います。

ですから、そのように考えると茅ヶ崎市でどういう点が問題になっているかということです。例えば、通勤途上の事故が多いとか、買い物の事故が多いとすればやっぱり買い物ネットワークあるいは通勤ネットワークみたいなものを重点的に整備していくとかそういうふうにして。要するにこういう問題点があって課題があって、それに対して対処するとすればそのつながりといいますか、ストーリーがあるべきなのです。特に群馬県の場合はもう明らかに全国でワースト1が、都道府県別のワースト1が10年ぐらい続いているものですから、もう汚名返上といいますか、通学のネットワークを最優先するとそういうふうな感じがあります。

ですからこの辺少し何か課題が、より重点的にメリハリを効かせていただければ非常にいいのかなというふうに思いました。

それから20ページのところ、4つの方向性で今回、前回に比べてより、特に日常利用のところといわゆる非日常利用といいますか、それをうまく分けられて、それぞれについてこの方向性を出すという、やはり日常利用・非日常利用のバランスがとれたような形の自転車都市をつくるという非常にストーリーとしてはよくできていると思いますので。

ただ、これから後から出てくると思いますが、この22のところの目指す姿のイラストですか、こういったところでやはり目標値の設定を、この4つの方向性ごとに、主だったものを1つか2つずつぐら整理をされて、設定されるといいと思います。

例えば「おもいやりの心づくり」は、やはり自転車利用者がルールを守って他の道路利用者から信頼を得る。つまり市民アンケートで、自転車がそのルールをよく守っていると評価される目標割合を設定するとかですね。

それが逆に自転車に対して、車のドライバーが自転車の運転を配慮している。あなたはどうか配慮していますか。具体的にドライバーの方に聞いて、それで自転車に対する配慮度合いを高めると。つまり「おもいやり」とはお互いが、自転車利用者が他の方に対してルールを守るなりして安全を確保する。逆に自転車利用者に対してドライバーその他の方が配慮する。これはお互いのおもいやりづくりのことだとすると、そういう指標を、それぞれ

ストーリーごとに作って。例えば、「風を感じる空間づくり」は走行空間と駐輪空間があると思いますが、こういったそれぞれの目標値を設定するとかです。

それから「暮らしにとけこむ仕組みづくり」ではおそらく自転車通勤が重点的にとらえられてると思いますので、その目標値とか。それから「まちの魅力に触れる仕掛けづくり」は自転車で外出するのが楽しいと感じる市民の割合とか、そういう風にそれぞれの項目についての評価項目をうまく徹底できると本当にストーリーがわかりやすく、楽しくなっていくのかなという感じはいたします。

○松本委員長

ありがとうございます。1個ずつ切って話をしていきましょうか。

確か評価指標の話ってというのは、目標値はあまり出さないようにしとこうというのが、前回の話で。

というのは、この前の計画で確か歩道・車道走行80%みたいな大きな目標が出て、「いやさすがにこれは」っていう話があって。茅ヶ崎ってというのは全国的に見ても、自転車の取り組みがすごくいいって言って、各地域から注目されてるところなので、変にケチがつきすぎるのはやめようと言った経緯があったので、その辺はメリハリつけてかなと思っています。その他事務局の方で補足をお願いいたします。

○事務局

この減少傾向に対する目標値という部分に関しては、今委員長の方からもお話がありましたように、こちらでは課題の整理をさしていただいて、取り組みをしてこの次の第3次プランで目指していきたいものについては、その後の第3章以降で整理をしていきたいと思っておりますので、こちらは課題の提示までという形で一度整理させていただければと思います。

15ページの事故のデータに関しては、集められる資料がどういうものがあるかを確認した上で検討させてください。

17ページのネットワークの優先順位というところのお話なんですけど、茅ヶ崎市の形ですと、自転車ネットワーク計画が道路部局の計画として、別で定めているという形になっておりまして、自転車プランの中で大きな考え方であるとか方向性というところだけを示して具体的にどういった道路からというところは、道路部局の計画の方で検討していく形になっております。

道路部局の計画が、今年度やはり改定という形で見直しをしていくということで今動いておりますので、そちらの中で議論できればと考えております。以上となります。

○古倉副委員長

道路部局のご検討される場合に、やはり課題意識といいますか全部同じように並べて平均的に作っていくのではなくて、茅ヶ崎市として追求したい、あるいは課題として設定されているものについて、重点的にそこから順番にやっていくというのが、やはり1つのやり方ではないかと思います。その辺も連携をよくとっていただいて、ご検討いただければありがたいなと思います。

それから目標値の方は、1年ごとに達成度合いを見るものではなく、市民や行政が目標をもって実践する意味があると思います。やはりそういうのをこれから課題として設定するとすれば、この辺が弱いのでこれをこのしろを高めていくとか。その場合に具体の数値による共通認識があった方がよいという立て方もあると思います。つまり評価として、今までやってきた議論がこの数字に対して、8割達成したとかしないとかではなく、だから駄目だとかってそういう評価の仕方は、あんまり良くない。こういうふうな方向に向かってるけれども、これはまだまだ足りないとかそういういわゆる数量的な評価というのは、達成度を図るのでない目標値としてやっていただくような形の設定の仕方はまだこれからあるんじゃないかと思います。その辺は考えただけであればありがたい。以上です。

○事務局

先ほどもご説明させていただきましたが、第2章の中では、現状と課題という形での整理をさせていただいて、第3章で方向性ごとの取り組み。ルール、マナーの周知徹底で、走行空間の整備でそれぞれの方向性を立てた中に、評価指標という形で。先にご紹介をさせていただきますと、方向性1の「心づくり」に関しましては、「自転車ルールマナーを学ぶ機会の提供」「交通事故の減少」「自動車ドライバー自転車利用者それぞれがお互いに配慮して交通ルールを守って利用している」こういった部分を評価指標として定めていくと、こういった部分を上げていくとか、改善していくところを掲げておりますので、その中で表現をしていければと考えております。

○松本委員長

ありがとうございます。

○猶野委員

小さいことで本当に申し訳ないですが、所々にアンケート結果の表が出ています。その中で例えば13ページにn=1341とか、n=1432とかn=1425とかn=356とか書いてあります。nというのは回答者の人数だったかなと思います。この前のアンケートの結果の時にはnって何か、書いてありました。だけれどここには何も書いてないので、n=回答者の人数とか、あるいはそういったことが分かるように書いておいていただけるともっと分かりやすいのかなと思いました。

○松本委員長

さすが市民委員の方なんで、僕たち専門バカになっちゃうんで。そうですよね。事務局いかがでしょう。

○事務局

ありがとうございます。申し訳ございません。ご提案なんですけど、こちらですとやはりその割合が低下しているであるとか、その全体の中での割合でこちらは資料の方を示させていただいておりますので、総数の表記を消させていただく、n=の部分を削除させていただくような方向でいかがでしょうか。

○松本委員長

個人的にはそれが一番何か分かりにくくなって、スマートかなと思いました。いかがでしょう。

○猶野委員

実際問題、何人が対象なのかなって思ったときに、割合ってというのは、分かりやすい。だけれども、まるっきり削っちゃうと、対象が市民何万人の調

査の結果なのかなとか思いますから。どっちがいいのか私にはよくわかりませんが。

○松本委員長 注釈で何人って。どのアンケート結果ということが※で下に一筆いれるぐらいでいかがでしょうか。

その他何かございますでしょうか。

○益田委員 自転車プランアクション22の益田です。11ページのイラストなんですけれど、「自転車健康都市 ～いつまでも自転車に乗って楽しみ続けられるまち茅ヶ崎～」っていうことなので、もうほぼ自転車の方たちとほぼ健康者の方たちが住んでいるまちですね。病院の前に車椅子の方がいるだけで、私、中ほどに杖をついてる方がいるのかなと思ったら犬の散歩でした。

超高齢化に向かって、もちろん健康都市で皆さんがこういう形でいければいいですけども、そうではなくって、そういう弱者の方たちも自転車に乗ってる方たちも、皆さんが健康な都市を目指してっていうところでは、もう少し杖をついていたり、車椅子の人が必ずしも病院の前ではなくって、もっと手前にそういう方たちも一緒にいるっていう気持ちを表したイラストであって欲しいなと思います。このイラスト直せるのかどうなのか分かりませんが。

○松本委員長 事務局いかがでしょうか。

○事務局 調整させていただければと思います。歩行者の中で生活をされてる方の中に多様な方がいらっしゃるところを表現するというところで、調整させていただきます。

○松本委員長 その他何かございますでしょうか。

○古倉副委員長 図でちょっと気が付いて、パッと見てよく自転車かけてるなど思うんですが、やっぱりいろいろ益田委員が言われていたとおり、詳細を見ると気になるところがいくつか。例えばヘルメットをかぶっているかどうかという話とか。それから、この十字路のところ、交差点が一時停止の線が、あるいはその信号があるのかってその辺とか。

やっぱり市民に訴えるための図になる必要があると思います。このように考えると、できたら歩道通行してる方はなるべく少なくしないと、やっぱり車道が原則ですから。

さらに右側通行はさすがになく、左側通行していますからこれ大事だと思うんですけど、そういうルールとか、あと走行空間が書いてあるけどその駐輪場とか駐輪空間が書いてないとかっていう、ちょっと言い出すとあんまり細かいことばかりして指摘して何か意地悪な感じがしないではないんですけど、その辺少し注意して、ルールに則った市民に見ていただいた時に、やはりこれに従って行動しないとイケないかなと思われるような絵にさせていただけると、より良いのかなと思います。確におっしゃる通り、この図よく見ると。以上です。

○事務局 ありがとうございます。ヘルメットなどは注意して見たつもりですが、歩

道を歩いている方は自転車を押している方が歩いたり、左側通行であるとかその辺りは注意してみたつもりではありますが、改めて確認させていただければと思います。

信号とかそういった部分を細かくやり過ぎていくと、リアルにしすぎるとイメージとして掴みづらくなるような部分もあろうかと思しますので、そのバランスを取りながら調整させていただければと思います。

○松本委員長

よろしくをお願いします。その他何かございますでしょうか。よろしいですかね。

次は3章、方向性ごとの取り組みの方向性「おもいやりの心づくり」について事務局より説明をお願いいたします。

○事務局

それでは26ページの「方向性Ⅰ おもいやりの心づくり～自転車の利用ルールの周知徹底～」の説明に移ります。

まずこちらのページの全体の構成ですが、初めに目指す姿、まちの現在、取り組み内容、そして期待される効果、評価指標の後、取り組み内容について具体的に書くという形の構成をとっております。

では26ページ目から順番にご説明いたします。まず一番上ですが、今回追加した点としまして、関連するSDGsのマークを追加しております。

次の目指す姿につきましては、前回の委員会でお示しをしました目指す姿になります。こちらをイラストで表現したいと考えております。イラストにつきましては、現在制作中ですので、今度資料を送付する際には、ご提示できればと思っております。

27ページ目にはまちの現在ということで、現状や課題を中心に掲載しています。

28ページ目に取り組み内容、そして、これを実施したらどういった効果が期待できるか記載している期待される効果、そしてその進捗状況をどのように図っていくか記載しています評価指標については記載の通りとなっております。

では取り組み内容につきましては、29ページ以降になります。こちらにつきましては、まず全体の構成としましては、最初に取り組み内容①と書いてあります、取り組み内容があります。

その下に主要な取り組みという形をとっています。さらに取り組みごとの関係者とその役割、近くですと32ページに書いている水色の部分です。

関係者とその役割、そしてそれをどのようなスケジュールでやるのかスケジュールという構成をとっております。

実際の取り組み内容につきましてはまず29ページ目。「①自転車のルールの周知徹底」で主要な取り組みにつきましては、「すき間のない交通安全教室の実施」そして2つ目としましては、31ページ目「地域、関係団体との協働による啓発活動」となっております。

29ページ目の「すき間のない交通安全教室の実施」について、詳細につき

ましては記載の通りとなりますが、前回の委員会の中で、大人や高齢者に対しての安全教室の実施や、ビデオなど、簡単に見られるような要素ということで、お話があったと思います。こちらにつきましては、事業の方に記載していますが、「交通安全教室の動画配信など受講機会の創出」や、3つ目の「ライフステージや年齢層など各段階に応じた交通安全教室の実施」などということで、こちらに反映して、こちらに含まれる内容ということになります。

続きまして、取り組み内容の2つ目としましては、33ページ目になります。②ということで「他者への“おもいやり”精神の醸成」になります。

具体的な取り組みにつきましては1つ目「段階的かつ体系的で地域学校の環境に応じた自転車交通安全教室の推進。」2つ目として「市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的に取るような啓発活動」になります。詳細の内容につきましては、記載の通りとさせていただきます。

続いて3つ目としまして35ページ目「③自動車ドライバーへの啓発」。こちらの事業につきましては、自動車ドライバーへの自転車の車道走行などに関する啓発活動となっております。内容につきましては記載の通りとなります。方向性1につきましては、事務局からの説明は以上です。

○松本委員長 　　ただいま事務局より説明がありました。方向性1について、委員の皆様よりご意見ございますでしょうか。

○西脇委員 　　2点気になるところがありまして、1つ目がグラフの文字のフォントです。図表3-1と3-2が並んでいた時に、そのフォントが気になったなっているのがあります。それで言うと30ページもそうなので、その辺りすごい細かいんですけど、気になった点がありました。

もう1つ、28ページ目に取り組み内容というのが重点①～③ってあった時に、この重点ってどこのページを見ればいいのか少し分かりづらいかないと思いました。以上です。

○事務局 　　ありがとうございます。申し訳ございません。フォントに関しては至急全体確認して修正をいたします。

取り組み内容の①から③がどのページかが分かりづらいということですので、その見せ方を検討させていただければと思いますので、お願いいたします。

○松本委員長 　　授業だったら減点とかするとこなんですけど。その他何かございますでしょうか。

○古倉副委員長 　　29ページの自転車利用ルールの周知徹底というところなんですけど、毎回思うんですけど、最近特にアンケート調査で、ルールは知ってるけど守らない。知らないから守らないんじゃないなくて、知ってるけれども守らない。つまり知ってて守らないという割合が結構増えています。

ということは、教育をしてもその教育をした結果が行動に結びついてない方がたくさんいらっしゃるということの問題点があります。

やはり隙間のないといいますか。どの世代でも何度も何度も、何度やっても結局それは知っているけど、守らない。例えば、一時停止なんか特にそうで、信号無視なんかも結構行われ、やってる方もいらっしやいまして。じゃあ、どうしたらいいのかっていうのは2つあります。

1つは、自転車の交通安全教育をする場合に、安全教育だけではなくて、自転車のメリットといいますか、自転車の利用促進のための教育もあわせてしてもらおう。関係ないじゃないかとかこういう話になるかもしれませんが、実は自転車って言うのは、例えば地球温暖化のSDGsの表もありますけれども、あるいは市民の健康の底上げにも非常に重要なツールです。つまり気楽にといいますかいい加減に乗るようなものじゃない、つまり非常に重要なそのものですよと。つまりそれがメリット、こんなすばらしいメリットがあって、それを市民が正しく使ったら本当にすばらしいメリットがあるんです。軽いもんじゃないです。そういうこと教育していただいてだとすると、単に自転車は車両だから、車両のルールを守れてやるんじゃない、非常に重要な車両と重要な移動手段だから、乗る方も責任を持って乗ってほしいと、こういうふうについてくると思います。

ですから自転車のメリット・重要性といいますか、そういったものをセットで教育していただかないと、頭の中で理解した守るというところに繋がってこないというのが1点。

それからもう1点は、それに関連するんですが、ここにも書いてあるかどうか。例えば31ページのコラムのところ、ルールを守らないとって書いてあるんですが、生ずるかですね。実際にどういうふうにルールを守らないと、どういうマイナス面が、逆に言うと例えば左側通行というのはなぜ守らないと駄目なのか。

当然ルールだから、法律だから守るのだとすると、上から目線でルールだから、法律だから守れではなく、やっぱ納得して守ってもらわないといけないと思います。やはり何でそのルールがあるのか、ルールの根拠みたいなものです。それをしっかりと話をしてもらおうということが重要だと思います。単に「こういうルールがあるから守りましょう」ではなくて、このルールはこういう根拠、こういうことがあるから守る必要があると。ところが、ルールの説明は懇切丁寧にされてるんですけど、そのルールが何でこうなるか。例え今左側通行と申しあげましたけど、左側通行というのは、仮に右側通行すると正面衝突があるから危ないんだと、そういうものじゃないんですね実は。

つまり自転車の車との正面衝突というのは、件数で言うと数万件の事故のうち100件ぐらいしかなくて。何が危ないかと言うと、右側通行してますと横道から出てくる車は右側しか見てない。つまり右側通行してくる自転車は左側から入ってくるわけなので、交差点で大変危険なのです。それからあとはその沿道のコンビニの駐車場から出てくる車は当然右側しか見てません。

そうすると右側通行で入ってくる、自転車は全く認知外にあるんです。出会い頭事故っていうのはすごい数が多いんです。1000件以上あります。

ですから、正面衝突なんかに比べてもっと多いんです。車道上の右側通行の何が危ないのかっていうことをちゃんと理解して、左側通行を守ろうと、こういうふうに持っていかないと。頭で理解すると行動に繋がってくる。つまりルールを知って守る。ここに繋がっていくと思いますから、そういう根拠と自転車はそんな軽いもんじゃないとこの2つをセットでやっぱり教育していただかないと。

本当に後々の持続性のあるルール遵守に繋がらないという感じがしますので、ぜひそういった点もご検討いただけるとありがたいのかと思います。以上です。

○事務局 安全対策課の吉川と申します。自転車ルールの徹底というところで、委員のご意見のように、自分事として捉えるっていうところ、そこにメリットや、危険性というところを、根拠を持って理解してもらい、腹落ちするっていうところが大事なポイントだと思いますので、記載については改めて検討させていただきます。

○松本委員長 その他何かございますでしょうか。よろしいですかね。

でしたら、まちづくりの方向性2「風を感じる空間づくり」について事務局より説明をお願いします。

○事務局 それでは37ページをご覧ください。方向性2「風を感じる空間づくり～走行空間・駐輪場の確保～」に移ります。

こちらにつきましても方向性1と同じ構成をとっております。まず目指す姿としまして、前回の委員会でお示しをさせていただいた通り、自転車の走行空間の整備や駐輪場が整備されることで、自転車で茅ヶ崎の風を感じながら、快適でストレスを感じることなく移動できる環境になっていますと記載しています。こちらの目指す姿につきましては、イラストでまた表現しようと思っています。

38ページ以降につきましては、まちの現在、取り組み内容、期待される効果、そして指標評価の指標ということで、記載の通りとなっております。

こちらの取り組み内容の詳細につきましては、40ページ以降に記載しております。

まず初めに、「①自転車走行空間の整備」ということで、主要な取り組みとしましては、「自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保」となっております。

2つ目としまして、42ページ「既存道路の整備・改善」、3つ目、43ページ「自動車走行速度の抑制」、そして4つ目としまして44ページ「道路の交通事故の防止対策」となっております。

こちらの4つ目の「道路の交通事故防止対策」につきましては、今年度4月までの委員会では、項目出しをしていませんでした。内容につきましては、

事故が多発する生活道路や交差点部において、注意喚起の看板や路面ステッカーの設置など、交通事故防止対策を検討するというものになります。

これまでも実施してきた取り組みになっておりますが、今後強化していくため、新たに事業として、枠を設けている形になります。

続いて46ページ目「②利用しやすい駐輪場の確保」になります。主要の取り組みとしましては、「利用しやすい駐輪場の整備・運営」となります。

続きまして48ページ目には、「③放置自転車の対策」ということで、「自転車放置禁止区域の見直し・啓発活動」になります。内容につきましてはこちらに記載の通りです。事務局からの説明は以上です。

○松本委員長

ただいま事務局より説明がありました、まちづくりの方向性2について委員の皆様から、ご意見ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。でしたら、何かあったらまた最後に色々議論する場を設けられればと思っております。

それではまちづくりの方向性3について事務局より説明をお願いします。

○事務局

それでは50ページ目をご覧ください。「方向性3 暮らしにとけこむ仕組みづくり～日常での利用促進・有効活用～」に移ります。こちらまず先ほどと同じ構成となっております。

はじめに目指す姿ということで、市民が自転車の利便性やメリットなどの魅力を知ること、通学、通勤、買い物など日々の生活の中で自転車を利用する機会が増えている。そして、シェアサイクルの活用や公共交通との連携を図ることで、日々の暮らしの中で、自転車を利用しやすい仕組みが構築されているということになります。こちらイラストで表現していきたいと思っております。

まちの現在につきましては、51ページ以降に記載しています。52ページには取り組み内容、期待される効果、評価指標を記載しています。

具体的な取り組み内容につきましては、53ページ以降をご覧ください。まず1つ目としまして、「自転車の利用機会の創出」に移ります。事業としまして、1つ目「シェアサイクルなどの利用促進」としております。内容につきましては記載の通りですが、こちらは前回の委員会で、シェアサイクルの場所が分かればといったご意見があったと思っております。整備状況ということで、どこに今シェアサイクルポートがあるのかわかるような形で記載させていただきます。

続いて、2つ目、54ページ目になりますが「健康づくり等に着目した自転車利用促進」になります。

これまでの取り組みですとか、現在作成中ですが、コラムもここに掲載していきたいと考えています。。続いて56ページ目、3つ目になりますが「自転車の利用方法の提案による自転車利用促進など」ということで書かせていただいております。

前回の委員会の中で、点検ですとか整備についてお話があったと思いま

す。こちらにつきましては、ここの「自転車の利用方法の提案による自転車利用促進」というところに、要素を含めているような状況です。

続いて2つ目としまして58ページ目をご覧ください。「自転車のまちのPR」に移ります。事業としましては「ホームページやイベントでの情報発信」となります。

続いて59ページ目をご覧ください。「③公共交通機関との連携」になります。事業としましては「公共交通との乗り継ぎの利便性の向上」になります。内容につきましては記載の通りとなります。

4つ目としまして61ページ目をご覧ください。こちら「災害時における自転車の活用」になります。主要な取り組みは「災害時における自転車の活用」を記載しています。

方向性3につきましては、事務局からの説明は以上となります。

○松本委員長

ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありました。

方向性3について委員の皆様からご意見ございますでしょうか。

○猶野委員

53ページのシェアサイクルポートの整備状況を載せていただいてありがとうございます。ただ、どこにあるのかよく分からないので、例えば番号を振ってもらって、一番は芹沢のどことか、十何番は茅ヶ崎駅南口ですとか茅ヶ崎駅北口ですとか書いていただくと、もっと具体的になって、見やすくって、ありがたいなと思います。

○松本委員長

ありがとうございます。

確かにそうですね。サイクル&バスライドは地名が付いているので、この中に地名を入れると大変そうなので、何か右に表を入れるとか何か工夫できればいいのかなと思ったりもしてますけど。事務局いかがでしょう。

○事務局

ありがとうございます。シェアサイクルポートは市内に今29ヶ所あるものになるので、その29ヶ所すべてを並べられるか。これからまた増やしていこうというところなので、ここですべてのポートを案内するのは、見せ方を検討させてください。

○松本委員長

よろしく願いいたします。ほか、何かございますでしょうか。

○古倉副委員長

一番面白いなと思ったのは、この市民提案といえますか。56ページで提案による自転車利用促進とありますが、こういうのはぜひ市民の参加意欲をかきたてる感じがありますんで、こういう利用の仕方っていうのは1年に1回ぐらいコンペといえますか、アイデア募集をして、市長さんがいいアイデアを出された方に表彰を差し上げてそれを広報するなんていう。

それによって、ちょっとそこまで行ってみようという人が増えるという、そういう何かコンペみたいのが、これは計画の中に入れるべき話なのかどうかはありますが、そういうのをやられて、少し市民にもっと関心を持ってもらうようにすると。非常にこういう風にしてある計画は、あまり私見たことがないから面白い。これ非常にいいと思います。

それから54ページのところで、健康づくり着目して、利用促進を今までや

ってきて、あるいは私の方で調査させていただいたりして、自転車通勤拡大はおそらく茅ヶ崎で一番最も向いているところだと思うんですが、買い物についても、これからやはり特に買い物事業者さん、特にそういう自転車に対する販売に非常に力を入れて販売しておられるところっていうのは、自転車で来てくださるお客さまが買い物等の利用がスーパーでいっぱい売っておられるところも、やはり買い物等の利用でもっと自転車を活用してもらうということもあっていいのかなと思うんです。当面、自転車通勤に重点を置かれるっていうのは私は賛成ですが、買い物というのもどっかに一言書いてあるのかな、54ページですかね。通勤や買い物で。特に昔、茅ヶ崎市さんで調査していた時は、スーパーのところで、今日幾ら買いましたかって自転車で来た人と、それから車で来た人と買い物金額を比較したり、1週間分の売り上げ比較したりして、やっぱりスーパー、商業事業者の方も、自転車でたくさん来ていただけるとにぎわいの点で絶対間違いなく増えるということもあります。それから売り上げもそんなに遜色ないということがありますので、買い物もあっていいのかなと思いました。ただ、自転車通勤に重点を置くということであれば、あえてそこまで申し上げませんが、そういった点も視野に今後入れていただけるといいのかなと思いました。

それからもう一つ、この自転車通勤で調査させていただいて、一番やっぱり気にかかったのは、企業さんが自転車通勤に積極的になることが非常に重要です。ニュートラルな方は、企業が8割以上いらっしゃるんですね。

これはやっぱり一番自転車通勤を推進するにあたって、企業さんがやっぱり積極的になれるように計画に入れて取り組んでいただきたいと思います。つまり健康経営をしよう。あるいは脱炭素経営をしようという時に、やはり自転車は非常に大きな核となります。私がさせていただいた調査の54ページの4行目ぐらい書いてありますけども。

この脱炭素とか健康増進に非常に効果があるということはある程度わかっていますので、そういう意味で企業さんにもぜひ積極的にやってもらうように、単にそのニュートラルのまま、どうぞ自転車通勤やりたい方はどうぞご自由に勝手にやってくださいではなくて、やはり企業さんそのものが健康経営とかそれから脱炭素経営の、一番大きな部分の一つだと思いますので、積極的に取り組んでいただくように持っていくというのが大事かと思います。

1点だけ、企業さんの一番気にしてる場所は事故です。自転車事故ですけど、これ調べてみますとやはり車の事故つまり、通勤手段の車の事故も非常に企業は心配してまして、これに対しては、むしろ実際の事故件数は圧倒的に車の方が多く、自転車が少ないことを啓発していただくことが必要です。ですから、何でその自転車の方が少ないのに自転車だけ目くじらを立てて危ない危ないというのかってそれはよく分からないですけど。

その誤解を解いていただいて、事故に対する懸念というのは一番大きな積

極的になれない理由の1つだと思いますので、そういう点も頭に置きながら啓発をしていただきたいと思います。あまりこういう機会ないと思いますので申し上げておきたいと思います。以上です。

○松本委員長 ありがとうございます。アイデアコンペなど要は自転車を他人ごとにしな
いてという取り組みだと思っんですけど、面白いアイデアだなと思いま
した。事務局いかがでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。いただいたご意見をもとに、また実際の取り組み
の中でも反映させていきたいと思っております。

○松本委員長 その他何かございますでしょうか。では次に行きましょうか。
まちづくりの方向性4「まちの魅力に触れる仕掛けづくり」について事務
局より説明をお願いします。

○事務局 62ページをご覧ください。方向性4「まちの魅力に触れる仕掛けづくり～
自転車を楽しむ機会の創出～」に移ります。

こちら他方向性と同じ構成となっております。まず目指す姿としまし
て、周辺にある景色やお店を楽しむなど、まちの魅力を発見したり、リフレ
ッシュしたりと自転車に乗ること自体を楽しむ人が増えています。

そして、自転車に乗りたくなるような工夫をすることで、自転車でまちを
回遊する市民や来訪者が増え、人が行き交いまちがにぎわっていますとし
ています。

まちの現在につきましては63ページに記載の通りです。取り組み内容や
期待される効果、そして評価指標を同じく63ページに記載しています。

では取り組み内容に移ります。64ページ目をご覧ください。まず①とし
まして「自転車のまちのPR」。こちらは方向性3の再掲となっております。1
つ目としまして「ホームページやイベントでの情報発信」、2つ目としまし
て、65ページ目になりますが「自転車を活用したライフスタイルの提案」と
なっております。取り組み内容の2つ目としまして、66ページの②に移りま
す。こちら「自転車を活用したにぎわいづくり」となります。

まず1つ目としまして、「シェアサイクルなどの利用促進」として、こち
ら方向性3の再掲となっております。

続いて2つ目としまして、67ページの「サイクルツーリズムの推進」にな
ります。

3つ目としまして、68ページに記載しております「サイクルステーション
の設置の検討」となります。

その他の内容につきましてはこちらに記載の通りとなります。方向性4に
つきまして事務局からの説明は以上となります。

○松本委員長 ありがとうございます。ただいま説明がありました。方向性4について、
何かご意見ございますでしょうか。

○猶野委員 細かいことで申し訳ないですが、66ページのLet's try「シェアサイクル
を活用してみよう」の「シェアサイクルは様々なシーンで利用できて便利で

す」の1つ目の四角の部分の「飲み会の日の通勤手段として」って書いてありますが、通勤っていうと行って帰ってくる印象がありますが、それはまずいかなと思って。それだったらむしろ56ページのLet's try「飲み会の時はお店までシェアサイクルを利用してみる」って書いてあるこの部分を利用した方がいいのかと。

○松本委員長 ご指摘の通りだと思います。こういう細かいところっておっしゃいますけど、すごく重要なことなんで、気づいたことはたくさん言ってください。事務局いかがでしょうか。

○事務局 修正させていただきます。申し訳ございません。

○松本委員長 その他、何かございますでしょうか。

○古倉副委員長 67ページのサイクルツーリズムです。来訪者をやっぱりまちの奥深く、地域資源のあるところまで来ていただくというために、サイクルツーリズムで自転車を活用したっていうのは、非常にいい取り組みなんですけど、1点、テーマ別に、例えば前に確か茅ヶ崎の景観50か100か忘れましたが、そういう取り組みがあったと思います。

ただ、そういう巡るコース設定といいますか、あるいは食べ歩きなら別に食べ歩きだけでもいいですし、サザンだったらサザンのテーマで、そういう風に来ていただく方に想定テーマ、テーマごとにコースを設定して、それを情報発信するといいますか。そういうことをしてやはりたくさん来ていただけて、単にスポットとしてこういうの、キャンプ場があるよ、こういうのがあるよ。じゃなくて、やっぱり自転車で巡るメリットっていう、自転車でぐるっと回遊していただくようなコース設定っていうのは別に市民代表者だけじゃなくて、市民にも自分のまちを見直すという意味で非常に重要だと思います。

道路部局がやられるネットワークの設定とはちょっと外れるかもしれませんが、やはりそういうテーマなりあるいはこういう素晴らしいものがある、大岡越前の墓とか。要するに歴史を見たい方は歴史テーマで回ってもらうとか、そういうコース設定っていうのは、情報発信されたらいいかと思います。多分この中にはそういうことも入ってると思いますけど、ぜひ一言二言そういうのも入れていただくという。以上です。

○松本委員長 関連することでしょうか。

○新谷委員 はい。観光協会の新谷です。古倉先生、案内所行ってみてください。

「ことりっぷ」っていうのがありまして、その中にシェアサイクルで回るコースが入っておりますので、ぜひ茅ヶ崎の観光案内所で「ことりっぷ」をお取りになっていただくと助かります。よろしく願いいたします。

○松本委員長 ジャストアイデアですけど、ここのコラムのところに観光協会の活動とかを入れ込むとすごく何かていがかいいのかなと。太平洋岸自転車道とは最初のあたりでも、こんな場所ですよっていう茅ヶ崎の立地とかのどこへ持っていてもいいのかなとジャストアイデアで思った次第です。事務局何かあれば

よろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございます。先ほどのネットワークの部分でもお話をさせていただいた通り、まだ市内のネットワークが構築されてる状態ではないので、ロードバイクが市内を回遊するというのがまだ茅ヶ崎だと現実的ではないのかなというような状況もございます。

今、市の観光部局の方でも取り組んでいるのがシェアサイクルを活用した市内を回遊する取り組みであるとか、そういった部分の中で、先ほど観光協会からもお話いただいたような「ことりっぷ」であるとか、そういったものも紹介されておりますので、サイクルツーリズムの部分か、もしくはその前段のシェアサイクルのところでも観光の部分に触れておりますので、そこにそういった要素を入れ込むような検討をしたいと思います。

○松本委員長

よろしくお願いします。その他何かございますでしょうか。

○田中委員

自転車組合の田中と申します。56ページに、非常にごろのいい自転車点検の項目がありまして、ブレーキ、タイヤ、ハンドル、車体、ベルとありまして、専門ごとになります。私どもとしてはライト、それから後部反射鏡という、夜走っていると後ろから自動車来ると光るという。それからチェーンです。走行中、チェーンがゆるいとバウンドしたり、ちょっと水を走った時に外れて転倒してしまうと、そんなこともあるので、大分ここ空いてますので、もし入れていただければと思います。以上です。

○事務局

ありがとうございます。こちら今、合言葉は「ブタはしゃべる」というキーワードで、今ここを書かしていただいておりますが、そのほかにもそういったものもあるという要素を入れ込む形で、検討させていただければ

○田中委員

そしたら後に「など」という、省略するんであれば、何か他にもありますよということ。

○古倉副委員長

前に自転車組合の方が自転車の点検をされて、点検した結果、半分ぐらいしか安全なのはなかったというか、そういう結果があったと。そういうのもやっぱり点検に対する必要性を分かってもらうようなデータを入れ込むと。コラムだけいいと思うんです。空いてるようでしたら。

○田中委員

現在でも、茅ヶ崎市内の高校、以前は5校やったんですが、現在3校、西浜高校と鶴嶺高校と、北陵高校でやっております。

それ以前はまた小学校等でも、地域の推進協などの関係で連携しておりましたけれども、今先生おっしゃったように、点検すると、最近はもっと悪いです。ですので、非常に高校生が通学の時に、乗るには危険がいっぱいあるということは常々思って、学校の方にはお話ししておりますけれども、不備な箇所は増えました。以上です。

○松本委員長

その他何かございますでしょうか。

○猶野委員

67ページの地図ですが、赤い枠で囲ってあって、県道46号ですとか国道134ですとか書いてあります。同じ赤い枠の中のくりに新湘南バイパスが入っていますが、これは自動車専用道路です。自転車は入れませんので、同

じ枠でくくってあるとちょっとまずいかと思います。

○事務局

ありがとうございます。見せ方を修正させていただければと思います。

○松本委員長

その他何かございますでしょうか。よろしいですか。

では、最後、第4章の推進体制について事務局より説明をお願いします。

○事務局

それでは推進体制ということで72ページ目をご覧ください。こちらにつきまして推進体制を記載しております。

本プランを進めるにあたって、市だけではなく市民一人ひとり、そして事業者の理解と協力が不可欠です。それぞれの役割による立場にあった責任ある行動・働きかけが、目指すまちの姿の実現につながります。すいません、将来都市像ということで記載していましたが、こちら目指すまちの姿に修正させていただければと思います。市民・事業者・市が連携を図りながら創造的に施策を進めていきます。

そして2つ目としまして、ちがさき自転車プラン推進委員会を継続して開催し、計画の取り組みや施策の見直し等を行ってまいりますとしております。

そして、下には市民の役割、事業者の役割、そして市の役割ということで、それぞれの役割を記載しております。こちらの推進体制については以上となります。

先ほどもご説明させていただきましたが、以前掲載していました計画の評価方法につきましては、第2章の21ページに統合する形をとっております。

事務局からの説明は以上となります。

○松本委員長

ありがとうございます。

ただいま事務局より説明がありました、第4章の推進体制について、皆様からご意見ありませんでしょうか。

○古倉副委員長

何度も恐縮です。どこかに書いてあったものですから、この最初の市だけではなく市民一人ひとりの理解と協力が不可欠です。だと思うんですが、どうされます、これは別に市のスタンスなんです。

つまり自転車を活用するのは、市民が主体という、市民がやっぱり自らやってもらって、それで市とか事業者もしっかり担って、やっぱり市民が一人ひとりみんな活用してもらわないと、市だけでももちろんこの計画作るのは市ですから、市が主体となっているという書き方でいいんですかね。別にそういうスタンスだということであれば、それでもいいかもしれません。私は自転車に乗るのは市役所の職員が乗るわけじゃなくて、やっぱり市民が乗ってくれないと、これは活用してくれないんで、やっぱり自転車活用推進計画の内容実現できないんですよね。

だから、むしろ市民が主役ですと言ってしまうと、じゃあこの計画作ったの誰？とこう言われるかもしれないから、もうちょっと市民がこう出して、皆さんがやっぱり活用していただくということが一番重要なポイントであるので、市がそれと連携して、あとは当然それを支えるために市側とか、事業者がその理解と協力のもとに、連携してやっていくんだよと。そういう感

じの方が・・・例えばこの計画で最初の部分が市民にわかりやすいように自転車に乗ってこないかと訴えられて、やっぱり市民が主体となって、自転車に乗って欲しいというのを訴えようというところまで比べてるとすれば、もう少し市民の役割ということが前面に出された方がいいのかなと思うんです。これはもう最終的に市のスタンスとしてどう考えるかによりますので、私の方でこうこうしなければいけないというわけじゃないと思うんですけれどね。という感じです。

○事務局

ありがとうございます。今の記載の中で、市民の理解と協力という表現がより良いのか、市民も主体的にという形の表現がいいのか、検討を一度させていただいて、次回資料をお送りさせていただく際にまた見ていただければと思います。

○松本委員長

その他何かございますでしょうか。

○益田委員

アクション22の益田です。72ページのこの推進体制っていうところで、2つ黒ポチがあって、2番目にちがさき自転車プラン推進委員会を継続して開催し、計画の取り組みや施策の見直し等を行っていきますと書いてあります。

10年前の第2次ちがさき自転車プランの中では、この1番の推進体制をそのままこういう形で、同じ表図が載っているんですが、この2番目のところで、第2次ちがさき自転車プランの推進体制ということで、もう1つ表が載っています。

それは、こちらにも32ページから色々どうやって推進していくかみたいなところで、例えば32ページ「本取り組みにおける関係者とその役割」のところで、市民、警察、その下に関係団体・市は協働で実施と入っていて、関係団体と取り組みを共同してやっていきますよっていうようなところの図までが載っています。

ちがさき自転車プランアクション22の私代表を今しておりますけれども、こういう団体ができたのも、第1次の時に、この冊子はできて22のプランはあるけれども、一向にプランが進まないじゃないかっていうところで、市民参加の団体ができた経緯があるので、アクション22だけではなくてそういう色々な関係団体と協力しながら、共同してやっていくっていう姿が、1つの図によっても、見られた方がわかりやすいんじゃないかなと感じています。

○松本委員長

ありがとうございます。事務局お願いします。

○事務局

ありがとうございます。表現のほうを再度検討させてください。市の役割の中では、関係機関との連携という言葉しか今残っていないので、その関係団体、市内で活動されてる方たちとの連携という部分をどう表現するか。検討させてください。

○松本委員長

ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。

最後に全体を通して何かご意見はございますでしょうか。

○古倉副委員長 恐縮ですが、このSDGsのゴールの話が「自転車に乗ってこんなにいい」というのの最後のところに、こういうのが出てますよね。実はこれ国連が言っておられるということは、ここに書いてある通りなんですけど、世界自転車連盟というのは、国連にこの17のうちの11個が自転車に関係あるというそういう文章を国連に出しておられます。

要するに、ここにちょっと字が細かくて、例えばこのゴールの絵がここに書いてあるんですが、やっぱりちょっと解説していただいて、何でこの17のうちの11が、これ国連の事務総長だったと思うんですが、その世界自転車連盟の方が11の目標について日本語訳も置いていきますから、また見ていただいて、少し解説された方が、せっかくこれ書かれてその意識を高めようとされるとすると、やっぱりこれがどういう関係、単にパパッと書いてあるだけで、これ何の関係あるのかという、そういうのが分かりにくいですね。すべて最初の部分とか何かそういったのを書かれた方がいいと思いますんで、参考に英語でしか書いてない、これは無理やり日本語に直したものを置いていきますから。よろしくお願ひします。以上です。

○松本委員長 ありがとうございます。その他何かございますでしょうか。

その他ご意見がないようでしたら、本日の内容を踏まえて、計画の策定作業を進めていくことでよろしいでしょうか。

【意見なし】

今回の委員会に向けて引き続き素案（案）の作成をお願いします。

4. 閉会

○松本委員長 それでは最後に事務局よりお知らせをお願いします。

○事務局 2点ほどございます。1点目は議事録についてです。本日の会議の内容につきましては、会議終了後に事務局から出席されている委員全員に対して、議事録の確認依頼を行います。修正等の意見がありましたらその期間中に事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

2点目は、今後のスケジュールについてです。9月中旬から下旬頃、本日の議論を踏まえた素案(案)をお送りいたしますので、ご確認お願いいたします。その後、10月中旬から下旬に委員会を開催し、答申の流れを予定しています。

本日の内容をもとに次期計画の作成作業を進めていきますので引き続き、よろしくお願いいたします。

○松本委員長 ありがとうございます。それでは、本日の会議は以上になります。

長い時間ありがとうございました。